

評価結果公表票

作成日 平成20年7月8日

【評価実施概要】

事業所番号	272701228
法人名	社会福祉法人吉幸会
事業所名	グループホームみろくの郷
所在地	三戸郡田子町大字茂市字仲田2-2 (電話) 0179-33-1300
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年2月14日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年6月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	280 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	65 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	町立田子診療所
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「同じ家に住む仲間になろうよ」「自分の人生を最期まで満喫しようよ」という理念を掲げており、利用者ができることを大切にケアを提供するよう日々取り組んでいる。また、管理者を始め全職員は、利用者を人生の先輩として敬い、利用者の話を引き出せるような声がけを心がけている。
町内会の会合や早朝の草取りなどの行事に参加したり、運営推進会議の委員である町内会長や民生委員からの意見や要望を今後の運営に反映させるなど、地域との交流を大切にしながらホームの質の向上に努めている。
法人として職員の人材育成に力を入れており、年間の研修計画を作成して職員を研修に派遣したり、資格取得のための積極的な支援を行っている。また、教育委員会や衛生委員会、給食委員会などの委員会を結成し、ケアの質の向上にも努めている。
献立には利用者の好みを取り入れたり、毎日入浴可能な体制を整えて利用者の希望に対応する等、一人ひとりのペースや希望、生活習慣等に配慮した支援が行われている。

【特に改善が求められる点】

現在取り組んでいる地域との関わりを基に全職員で話し合いを行うなど、現在の理念に地域密着型サービスの役割を盛り込むことに期待したい。
地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について全職員が概要を理解できるよう、外部研修後の伝達研修を行ったり、関係機関から情報を収集して定期的に内部研修を実施する等の取り組みに期待したい。
職員は身体拘束について理解し、拘束のないケアが提供されているが、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、理由や期間等を記録したり、家族の同意を得る体制を整えてはどうか。
災害時に備えて日中と夜間を想定した避難訓練を実施する等の取り組みを行っているが、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は運営推進会議や職員会議で検討しており、継続的な研修のあり方や感染症対策など、話し合った内容を今後の運営に反映させている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価には管理者のみが関わるのではなく、職員全体で取り組むことを方針としている。自己評価は今後活かす気づきを得たり、日々のケアを確認・検討する良い機会であると捉えており、全職員で話し合いながら作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議を開催しており、日々の取り組みや自己・外部評価結果等を報告し、委員から率直な質問や要望などを出してもらっている。また、委員から出された意見は今後のケアにつなげている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月のホーム便りや個人便り、面会時等を利用して日々の暮らしぶり等を家族に報告している。また、いつでもなんでも話してもらいたい旨を家族に伝えたり、ホーム内外の苦情受付窓口を周知する等、家族の要望などを引き出す取り組みを行っており、家族から出された意見等は職員間で検討し、ケアサービスの向上につなげている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事や会合、周辺の団体等との交流を図るほか、ホーム主催の夏祭りに地域の人の参加を促す等の取り組みを行っており、住民がやぐら作りの手伝いに来てくれるなどの協力関係が築かれている。また、町内会にホールを貸したり、見学や相談、実習生等を積極的に受け入れるなど、地域に開かれたホームとなっている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>全職員で話し合って作成した理念があり、職員会議等で確認しながら理念の実現に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>職員は虐待について理解しており、虐待のないケアを提供している。また、虐待を発見した場合の対応がマニュアルとして整備されており、全職員に周知が図られている。</p> <p>年間の研修計画を策定して全職員が平均的に研修を受講できるよう配慮するほか、受講後は報告書を作成して伝達研修を行うなどの取り組みも行っている。また、法人内の他ホームとの連携が図られており、得られたことは今後のケアに活かしている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用相談の時から利用者や家族との面談の機会を大事にしており、自宅訪問やホーム見学等を通して一人ひとりの生活状況や思い等を把握し、信頼関係作りにも努めている。</p> <p>職員は、利用者と一緒に日々の作業を行うことで一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、利用者が得意なことは教えてもらったり、調理や園芸、裁縫等は利用者へ手伝わってもらうなど、利用者と職員が助けあって暮らしている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>日々の関わりや家族からの情報、ケア会議での全職員の意見等を基に個別具体的な介護計画を作成している。また、その時々状態に応じた支援を提供できるよう、6ヶ月に1回の見直しや状態変化時等の随時の見直しを行っている。</p> <p>これまでの受診状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、協力医療機関を確保していつでも対応してもらえる体制を整えている。また、受診結果を家族に報告し、必要に応じて話し合いを持つ等、共有を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者を敬う姿勢を持ち、一人ひとりのペースや要望等を大切にしたいケアを提供するよう心がけている。また、個々の生活歴や力量等を把握しており、調理の手伝いや後片付け等を役割や楽しみごととして行ってもらっている。</p> <p>日常的に買い物や散歩に出かけるほか、花見やぶどう狩りなどの季節を盛り込んだ行事を企画するなど、積極的に外出の機会を設けている。また、家族の協力を得ながら墓参りや孫の行事に出かけるなどの外出支援も行っている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に職員間で協議し、「同じ家に住む仲間になろうよ」「自分の人生を最期まで満喫しようよ」という理念を掲げている。職員は地域密着型サービスの意義等を理解しており、地域との関わりを大切にしたケアを提供しているが、それが理念に盛り込まれていない。	○	全職員で再検討を行うなど、現在の理念に地域密着型サービスの役割等を反映させることに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で理念の確認を行っており、職員は理解している。また、利用者ができることを大切に、その力を尊重して見守るなど、理念の実現に向けて日々のケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の行事や会合に参加するほか、ホーム主催の夏祭りに地域の人々の参加を呼びかける等、住民との関わりを持っており、小学生が下校途中に立ち寄ってくれるなどの関係が築かれている。また、ホームの一角に居宅介護支援事業所を設けており、いつでも住民が相談できる体制を整えているほか、実習生や見学者なども積極的に受け入れており、その際には利用者のプライバシーに配慮した対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価のねらい等を理解しており、全職員で取り組むことを方針としている。また、自己評価を行うことは、今後活かす気づきを得たり、現在のケアを確認・検討する良い機会と捉えている。外部評価の結果は運営推進会議や職員会議で検討して改善計画を作成し、サービスの向上につなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催しており、地域にホームの理解が深まってきていることもあり、メンバーの参加率は高い。会議では日々の取り組みや自己・外部評価の結果を報告しており、委員から率直な質問や要望等が出されている。委員から出された意見は職員会議で検討し、今後の運営に反映させている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットやホーム便りを運営推進会議の時に担当者に配布したり、評価結果を提出する等、ホームの現状を伝え、行政との連携を図っている。今後も更に連携を図っていきたいと意欲的である。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加するなど、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関して学習する機会を設けている。しかし、その後の伝達研修を行うなど、全職員に制度の概要を理解する取り組みを行うまでには至っていない。	○	外部研修後の伝達研修を行ったり、関係機関から情報収集を行って定期的に内部研修を実施する等、全職員が制度の概要を理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修を通して高齢者虐待防止法に関する理解を深めている。日々のケアで気になる点は職員がお互いに注意し合ったり、管理者が職員の言動に注意を払うなど、虐待を未然に防ぐよう努めている。また、虐待を発見した場合の対応についてマニュアルとして整備しており、全職員が把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書や重要事項説明書を基に理念やケアの方針等を利用者や家族に説明している。また、疑問点等を出してもらえよう丁寧に対応している。契約改訂時や退居時にも説明して同意を得ており、退居時には退居先の情報を提供し、入院や在宅療養など、個々に合った支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りや写真等を掲載した個人便り、面会時等を通じて暮らしぶりや健康状態、受診状況、職員の異動等を家族に報告している。また、金銭管理状況は出納帳に記録し、領収書を添えて家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも何でも話してもらいたいことを家族に伝えるとともに、面会時にはゆっくりと話をしよう心がけている。また、ホーム内外の苦情受付窓口や対応手順を文書や廊下に明示したり、運営推進会議の場で家族の意見や要望を聞くなどの取り組みも行っており、家族からの意見等は職員間で検討して今後のケアに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者への影響を理解しており、異動等は最小限に抑えるよう配慮している。交代や新しい職員を配置する時などは職員間の引継ぎを詳細に行うとともに、時間をかけて利用者に説明している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成しており、全職員が平均的に受講できるよう調整している。また、資格取得についても積極的に支援している。研修受講後は報告書を作成して伝達研修を行い、全職員への周知を図っている。事務長がスーパーバイザーの役割を担っており、職員の業務上の悩みについて助言等を行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の認知症高齢者グループホーム協議会に加入している。また、法人内の他ホームとの連携が図られており、得られたことは今後のケアに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用相談時に自宅を訪問して日頃の暮らしぶりや意向を把握したり、見学に来てもらって利用者や家族と面談する機会を設けるなど、安心してホームでの生活を始められるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に日々の作業を行うことで一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、利用者が得意なことは教えてもらったり、調理や園芸、裁縫等は利用者を手伝ってもらうなど、利用者職員が助けあって暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりや表情、言葉から、一人ひとりの思いや希望、好み等を把握している。また、意向が十分に把握できない時は、職員間で話し合いを行ったり、家族から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から収集した情報を基にアセスメントを行ったり、ケア会議で全職員の意見や気づきを出し合い、個別具体的な介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、6ヶ月に1回の見直しを行っている。また、身体状況の変化や家族の要望等がある時には随時の見直しを行っており、見直し時には再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の車両を使用して受診時の送迎や外出支援を日常的に行っている。また、お墓参りや孫の運動会、自宅の様子を見に行く等、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、協力医療機関を確保するなど、体調変化等の時はいつでも対応してもらえる体制を整えている。また、受診結果は家族に報告し、必要に応じて話し合いを持つ等、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには対応していないが、日常的な健康管理や緊急時の対応については利用者や家族との意思統一が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケア会議等で利用者への接し方について話し合いを行っており、職員は穏やかな声でゆったりと対応している。また、職員は個人情報保護法について学習しており、個人ファイルを保管している棚には目隠しをするなどの対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや要望を大切にケアを心がけている。また、その日の心身の状態に配慮しながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や好みを取り入れた献立を作成している。また、個々の力量等に応じて準備や後片付けなどを手伝ってもらったり、職員も利用者と同じテーブルで持参した弁当を食べるなど、食べこぼし等へのサポートを行いながら会話を楽しみ、和やかな食事時間となるよう配慮している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制となっており、利用者が希望する時に入浴してもらっている。また、入居時に利用者や家族から入浴習慣や好みを聞いており、羞恥心等に配慮しながら個々に合った支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や要望、力量等を把握しており、畑仕事や掃除、食事の準備等の役割や、裁縫などの楽しみごとを促し、利用者が力を発揮できるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物や散歩に出かけるほか、花見やぶどう狩りなどの季節を盛り込んだ外出の機会を設けている。また、家族の協力を得ながら、自宅訪問や墓参り等にも出かけている。外出時は車椅子やリフト付き車両を使用するなど、利用者の身体状況に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、外部研修や会議を通して身体拘束について理解を深めており、どんなことがあっても拘束は行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでいる。しかし、やむを得ず拘束を行わなければならない場合の対応を整備するまでには至っていない。	○	やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、拘束の理由や期間、経過等を記録する様式を整備したり、家族に説明して同意を得る仕組みを整えてはどうか。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠しておらず、外出傾向を察知できるよう見守りし、察知した時は職員が付き添う等の支援を行っている。また、無断外出時には近隣の農協や住民から連絡がもらえるなどの協力関係が築かれている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルが作成されているほか、利用者と一緒に日中と夜間を想定した避難訓練を毎月行っている。災害時には警察署や消防署、町内会からの協力が得られる体制となっているが、食料や飲料水等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害時に備えて数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を取り入れたバランスの良い献立が作成されている。また、外部の栄養士から献立についてアドバイスをもらえる体制が整えられている。食事は1,600kcal、水分は1,000mlを目安として提供しており、摂取量を把握し、必要に応じて記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・対策マニュアルが作成されており、必要に応じ見直しを行っている。また、研修を通じて感染症に関する学習を行っており、保健所などの関係機関から情報収集を行い、早めの対応を心がけている。感染症に関する情報はホームに掲示したり、便りに掲載するなど、家族にも提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には食卓やソファ、畳敷きの小上がり、囲炉裏等が設置されており、家庭的な雰囲気となっている。窓から入る日射しはカーテンで調節しており、職員の声のトーンや物音、テレビや音楽などの音量も適切であり、落ち着いて過ごせる空間となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた馴染みの物を持ってきてもらうよう家族に働きかけており、家族の写真や飾り物、生活用品等が持ち込まれ、一人ひとりが居心地よく過ごせる居室となっている。		

※ は、重点項目。